

子どもたちの未来に 食の安心をつなぐ



私たちの国で消費する食べものは、できるだけこの国で生産する

その考え方を国消国産といいます。



JAグループサポーター
林修

日本は今、食料の約6割を輸入に頼っています。



もしも輸入が難しくなって、必要な食べものが足りなくなったら...農畜産物は、足りなくなったからといって、すぐに生産を拡大することはできません。だから、日ごろから「国消国産」を進めることが、とても大事。「国産」をもっと食べましょう。

国産を食べると、いいこといっぱい!

<p>自給力アップで、いざというとき安心!</p>	<p>日本の農業を食べて応援できる!</p>	<p>おいしくて安全・安心な食事を実現!</p>	<p>輸送で出るCO2を減らし、SDGsに貢献!</p>
---------------------------	------------------------	--------------------------	------------------------------

国消国産が日本の食の未来をつくりまします。

国消国産は、消費者が主役!

農業の未来は、子どもたちの未来。

日本では、「農業」に必要な肥料や家畜のエサ、燃料の価格が高止まりしています。それらを価格にきちんと反映できなければ、農業を続けていくことが難しくなってしまいます。今、私たちが「食べて農業を応援する」ことが、日本の農業の持続につながり、安全・安心な日本の「食」を、子どもたちの未来につなげていくこととなります。



「食」と「農業」の未来のために、新たな「食料・農業・農村基本法」が成立。

農政の憲法とも言われる「食料・農業・農村基本法」が25年ぶりに改正されました。「食料安全保障の確保」という基本理念が盛り込まれ、そのために農畜産物の合理的な価格形成が必要であることが示されました。消費者にとって食料を安く買えることはうれしいのですが、コストを反映できないと農業を続けられず、将来的に食料を生産することが難しくなります。



JAグループは、農業を持続可能なものにするため、新しい取り組みを始めています。

例えば、宮崎では、消費者・関係者の理解もあり、生産した一部の青果物の価格に、燃料代の高騰・変化を反映させる「燃料サーチャージ」を導入しています。これによって、農家は安心して生産を続けていけるようになりました。

